

# 8.17 四電 いかた げんぱつ 伊方原発再稼働を許さないデモ

主催：伊方原発の再稼働を許さない市民ネットワーク・広島



## 南風に乗り、潮に乗る 広島は伊方原発 最大の被害地元 です。

### 危険な四国電力伊方原発

四国電力・伊方(いかた)原発は危険な原発です。特に3号機(出力89万kW)はプルサーマル炉でウラン・プルトニウム混合酸化物を燃料としています。通常運転でも瀬戸内海に大量の放射性物質を垂れ流しているほか、敷地内には大量の放射性廃棄物を貯蔵しています。また伊方原発のほぼ真下には、巨大な活断層である中央構造線が走っており、さらに四国沖には、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートがぶつかって巨大な南海トラフ(溝)できています。いつ巨大地震や津波に襲われても不思議ではない位置に伊方原発は立地しています。

(裏面参照のこと)



原子力保安院がストレステストを承認している原発は、関電大飯原発3・4号機、それに四電伊方原発3号機です。次の再稼働は、伊方原発です。

## 海で直接繋がる広島と伊方原発

伊方原発と広島は直線でほぼ 100km 離れています。しかし瀬戸内海で伊方原発と広島は直接繋がっている、とも言えるのです。

1957年10月10日、イギリスの西カンブリア州にある兵器級プルトニウム生産のウィンズケール核工場（現セラフィールド核燃料再処理工場）で大火災が発生、世界初の原子炉重大事故が発生しました。この時放出された約 2 万キュリーの放射能は工場周辺 500 平方キロを汚染しました。その時の風向きや潮流のせいで、アイリッシュ海やその対岸のアイランドまで深刻に汚染されました。この健康被害が明らかになったのは30年後の1983年のことでした。小児ガンと白血病の発生群が確認されたのです。不思議なことに事故を起こしたイギリス本土よりも対岸のアイランド沿岸部の方が被害が大きかったのです。学者グループの綿密な研究の結果次のことが判りました。

- 『・ほとんどの「がん」は海岸近くで急速に増加している。
- ・その増加は海岸から800mの範囲の細長い形状で最大になっている。
- ・潮汐エネルギー（潮の満ち引きのエネルギー）の低い地域でその増加は最大である。
- ・がんの発生は、調査期間全体にわたって増大しており、放射能放出のピークからほぼ5年遅れで追隨している。』

つまりアイリッシュ海が放射能で汚染された結果、風向きもあって対岸のアイランドでの健康被害が大きかったのです。これが「海岸効果」です。伊方で事故が起きれば、潮流や風向きで広島は大きな被害を受けるでしょう。広島と伊方原発は海で直接繋がっているのです。



## 悪質な伊方原発

原発は通常運転でも様々な放射性物質を大気や水中に放出していますが、加圧水型の伊方原発は中でも悪質です。下表は過去 10 年間の間に放出した液体の形での放射性トリチウムの量ですが悪質な関西電力・美浜、高浜、大飯の3原発をはるかに上回る量を放出しているのが伊方原発です。原子力施設運転管理年報によれば、**10年間で550テラベクレル**です。すべて瀬戸内海に流されました。放射性トリチウムは体の中に入ると、細胞の高分子組織を破壊する可能性のある放射性物質です。電気事業連合会は安全だと宣伝しています。

### 四国電力 伊方原子力発電所が10年間で放出した液体の形でのトリチウム（関西電力3原発との比較）

単位：テラ（兆）ベクレル

年度	伊方	美浜	高浜	大飯	総合計
2010	51.0	1.7	5.3	1.3	8.3
2009	57.0	1.8	6.3	6.4	14.5
2008	58.0	2.3	5.9	9.0	17.2
2007	66.0	1.6	6.3	9.8	17.7
2006	46.0	1.5	6.9	6.6	15.0
2005	53.0	1.4	6.8	7.7	15.9
2004	68.0	2.0	6.0	8.9	16.9
2003	54.0	1.8	4.0	7.4	13.2
2002	52.0	2.3	4.3	8.1	14.7
2001	47.0	1.3	6.5	5.6	13.4
合計	552.0	17.7	58.3	70.8	146.8

（原子力施設運転管理年報 平成23年度版による）

## 大量に放射性廃棄物を蓄積

### 四国電力 伊方発電所が蓄積する放射性廃棄物

単位：使用済み核燃料は核燃料集集体数  
低レベル放射性廃棄物は20ℓドラム缶数

	使用済み核燃料			低レベル廃棄物
	発生量	搬出量	蓄積量	蓄積量
2011年度	84	0	1,408	30,000
2010年度	66	0	1,324	30,000
2009年度	110	70	1,258	29,500
2008年度	58	70	1,218	29,500
2007年度	80	42	1,230	28,500

### 核燃料集集体

燃料棒を格納する容器のことで、2011年度（2011年3月末）には伊方原発の敷地内に合計**1408体**の集集体が蓄積されています。**合計約9万本の使用済み核燃料棒**が蓄積されていることになる。特に伊方原発3号機はプルサーマル炉であるため、ここで発生する燃料棒はプルトニウム酸化物を含んでおり特に危険。搬出先である青森県六ヶ所所の再処理工場に受け入れる余裕がなくなっている。

### 低レベル放射性廃棄物

数字はすべて20ℓドラム缶の概数。本来は、青森県六ヶ所村の低レベル放射性物質埋設センターに搬出して嚴重に埋設されるべきであるが、**満杯のため、2010年度以降搬出できていない。**